

令和5年度 学校関係者評価（学校評議員）

A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

項目	評価	評価内容
学校運営	A	<ul style="list-style-type: none"> ・L A通級教室について、幼稚園・保育園と小学校での児童の違いにとまどう保護者が多く、ニーズは多いと考える。また、発達検査の受診等、特別支援学級に抵抗が強い保護者にとって、特別支援学級に入らず児童の特性にあった指導が受けられることは有り難いと思う。 ・校内が綺麗に整い、靴箱の整理整頓が行き届いていた。担任の指導が行き届き、児童の落ち着きにつながっていると感じた。
学習指導	A	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学級の児童も整然と授業に臨んでいた。また授業を熱心に受けていたことが印象的だった。職員の日々の指導に敬意を表する。 ・タブレット端末の活用も日常的に行われていて良かった。タブレットの持ち帰りは毎日行われていることが分かった。 ・担任が児童とアイコンタクトをとりながら指導する様子が非常に印象的だった。児童や担任の生の様子が見られて良かった。
学校行事等	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を踏まえて教育活動の工夫改善を図ってきたことを生かし、本年度は「実感のある関わり」をめざして外部人材の活用やマラソン納会など、さらに工夫を凝らした教育活動ができた。 ・学校内外における、自然観察、世代間交流、伝統的・文化的活動等、多方面に渡る見学や体験活動を通して、児童の健全な成長が図られていた。 ・幼稚園や地域人材、保護者との交流が、子どもたちにはとても興味深い活動になったと思った。
生徒指導	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校の児童に対し、学校が計画的・組織的に対応していることがよく分かった。学校評価を生かしながら、児童が安心して登校できる学校となるよう、PTAも学校と密接に連携していきたい。 ・画一的な指導でなく、児童個々に即した対応が行われていて良い。教職員の労を惜しまない取組の賜であると考えます。 ・スローガン「自分からあいさつ」「やさしいことば」が児童に浸透していることが、児童アンケートの数値が向上していることからよく分かった。
家庭・地域との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭と学童ルーム指導員のチーフが毎月情報交換をしていると聞き、学校と学童ルームの連携が密に図られていることが分かった。非常に良いことだと思う。 ・学校は児童を指導するだけでなく、地域との連携や交流を通して子どもを見守り育てる「希望の場」だと考える。本年度の学校の地域と連携した活動からそう感じた。 ・学校がこまめに保護者と連絡を取り合っていることが保護者との信頼関係を構築していると感じた。保護者への啓発を通してさらに信頼関係を高め、協力して心豊かな児童を育成したい。
児童の様子	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から1年間児童の様子を見てみると、児童の各所に成長が見られ喜ばしい。 ・児童が教職員を見る目が、時には憧れであり、また尊敬であり、その表情は実に豊かである。社会生活の基盤が徐々に養成されていると感じる。 ・授業参観では、どの学級も落ち着いて授業に取り組んでいた。 ・優しい言葉をかけることは、いじめ防止にもつながることだと思う。引き続き児童には意識をして欲しい。